

## 第 64 回全国植樹祭 主催者挨拶

平成 25 年 5 月 26 日 とっとり花回廊  
鳥取県知事 平井伸治

天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、緑と花いっぱいの「とっとり花回廊」におきまして、第 64 回全国植樹祭が開催されますことは、私たち鳥取県民にとり無上の喜びであります。

伊吹衆議院議長、林農林水産大臣、下村文部科学大臣、田中環境副大臣、佐々木理事長をはじめ、御列席の皆様を心から歓迎を申し上げます。よう来てごしなあいしました。

そして、この大会の実現にあたりまして大変なお力添えをいただいた数多くの方々に、感謝のまことを捧げますとともに、表彰を受けられる皆様に対し、お祝いを申し上げる次第であります。

「鳥取の海静かにて集ふ人と平目きじはたの稚魚放しけり」

2 年前、海づくり大会にあたり、陛下の御製をいただきました。

緑は私たちの命の源であります。そして、海を育み、この地球を育てているのです。しかし、地球の陸地のわずか 3 割しか森はありません、緑はありません。海を考えれば、たった 1 割であります。我が国が 67% の森を誇り、鳥取県が 73% の森を有するのは、大いなる恵みでもありますが、重い責任でもあるわけでございます。

鳥取の森、大山一帯は、全国の森林が会おう場所です。

スダジイなどの照葉樹林の上に、ブナ林など広葉の落葉樹林が広がります。そして、山頂付近には寒いところの針葉常緑林が広がります。それがダイセンキャラボクであります。このような多様性があるからこそ、この界限には本州の野鳥のうちの実に 7 割の種が集まって住んでいます。そして、命の輝きを歌い上げているわけであります。

鳥取県民は、森とともに歴史を繋いでまいりました。弥生の昔、県内の遺跡からは、木材を利用したことが分かっております。400 年前、慶長時代、スギを植えることから始まった鳥取県の林業。250 年の樹齢の若桜町吉川のスギ材は、豊明殿の天井材となって輝いているわけであります。この界限は「たたら製鉄」のメッカでありました。製鉄にあたり、森は製鉄の燃料でありました。

「感じよう 森のめぐみと 緑の豊かさ」

5 万人にも上る「美鳥<sup>みどり</sup>の大使」が、植樹祭を目指して木を植えてまいりました。東北の

津波で失われた海岸林を取り戻そうと、岩手、宮城、福島の3県から種をお預かりし、学校などで育て、この秋以降また植えに行こうというプロジェクトが、進み始めております。

森の中で子供を育む、「森のようちえん」。J-VER という名で CO2 の吸収源を森林でつくる、そういう運動。海を越えて砂漠を緑化していこうという、ボランティア。

鳥取県は、県民とともに、今、フロンティアを目指して動き始めたところでもあります。

「大地を一步一步踏みつけて、手を振って、いい気分で、進まねばならぬ。急がずに、休まずに。」

大山を舞台とした志賀直哉の「暗夜行路」の言葉のとおり、私たちは前に進む時であります。

今こそ、緑の国づくり。

鳥取からグリーンウェイブを起こしてまいりたいと思います。

この国のために。この星のために。

そして未来の子供達のために。

天皇皇后両陛下の弥栄をお祈りし、御列席の皆様の御健勝をお祈り申し上げます。

本日は誠に有り難うございました。

だんだん。